8-1-7　白書委員会

1. 主な活動の記録

(1) 白書委員会等の開催

対外活動・白書合同委員会開催回数 ：4回

白書委員会 WG 開催回数 ：3回

(2) 活動の目的

建設コンサルタントを広く国民一般に知らせ、コンサルタントの活動に対する国民の理解を得るための媒体として、コンサルタントを取り巻く状況、コンサルタントの課題と今後の方向、コンサルタントの取組みなどについて包括的に記述する「令和元年度建設コンサルタント白書」の原稿を作成することを目的とする。

2. 白書の作成方針

白書作成の基本方針は、以下のとおりである。

(1) 骨子作成時点、第一次原稿作成時点、第一次原稿意見への対応時点、第二次原稿作成時点に、理事、本部委員、支部等から広く意見を聴取し、掲載項目、構成、内容等を検討する。

(2) 社会資本整備、建設コンサルタントを取り巻く外部環境の変化に呼応して、査読直前（令和元年5月末）までの最新の情報を盛り込む。

(3) 「要望と提案」の【付属資料】との十分な連携を図るため、発行時期を令和元年8月末とする。また、白書 WG では令和元年度「白書」以降の方針について、白書の構成、ボリューム削減、執筆方法等の視点からの見直しを検討した。執筆方法は、執筆様式に基づいて、要点の把握が容易であるという観点から「ポイントのみ四角囲み+補足説明」を基本とし、本文の表記法はより簡潔に記述するため「である調」を継続する。

3. 白書の目次構成と主要改訂点

平成30年度「白書」からの主要な変更点は、以下のとおりである。

(1) 3-5節のタイトルは「健全な企業経営」とし、現状の記載内容に整合するように変更する。

(2) 働き方改革への対応が迫られていることから、3-1-2項を「生産性向上の取組み強化」、3-1-3項を「働き方改革に基づく就業環境の改善に向けての取組み強化」に変更する。

(3) 将来の担い手に対して魅力のある産業であることを強調するため、「3-1-5　業界の将来を担う若手技術者の主体的活動」に、業界のあるべき働き方などを追記し内容の充実を図る。

(4) 白書の第二次原稿作成時に執筆委員から参考文献リストを収集し、参考文献の充実を図る。

第1章　建設コンサルタントを取り巻く状況
　1-1 建設コンサルタントを取り巻く状況
　1-2 建設コンサルタントの概要
第2章　建設コンサルタントの役割と活動
　2-1 建設コンサルタントの役割
　2-2 建設コンサルタントの活動領域拡大の方向性
　2-3 建設コンサルタントの施工時役割の現状
　2-4 CM方式の活用
　2-5 設計・施工一括発注方式等への参画
第3章　建設コンサルタントの課題と今後の方向
　3-1 担い手の育成、確保
　3-2 品質の確保・向上
　3-3 求められる技術力
　3-4 設計等業務体系と報酬・積算体系の改善と提案
　3-5 健全な企業経営
　3-6 適正な地位の確立
　3-7 地域コンサルタントの活動領域の拡大
　3-8 国際競争力の強化
第4章　建設コンサルタンツ協会の概要と活動
　4-1 建設コンサルタンツ協会の概要
　4-2 技術者資格と継続教育
　4-3 社会貢献活動
　4-4 中期行動計画の推進
資料編、参考文献、索引、図表索引、略語・略称・用語の説明、建コンフォト大賞作品、支部のトピックス

4. 執筆・編集体制

白書委員会では、上記目次構成を吟味した上で、項別に担当委員会を決め、担当委員会で執筆担当委員を選定、別途項別に編集担当委員を任命し、編集担当委員が編集取りまとめを行った。また、支部委員が第二次原稿を査読した。

5. 作成部数等

平成30年度「白書」の配付部数は、協会内部に約900部、発注者に約2,700部、RCCM更新講習会に約4,400部の合計約8,000部である。なお、協会ホームページにも「白書」の全文を公開した。

6. 次年度の活動について

令和元年度「白書」の最終原稿完成及び次年度「白書」の原稿作成に向けて活動する（継続）。

（白書委員会委員長　兼塚　卓也）